

会津の守護神

はにっ 土津神社

境内めぐり

会津初代藩主保科正之と土津神社

保科正之は、徳川2代将軍秀忠の子として生まれ、信州高遠、出羽最上を経て会津藩主となり、名君ぶりを発揮した。また、4代将軍家綱の後見役として幕政に携わり、玉川上水の建設など数々の功績をあげた。学問に秀でて、特に神道の師・吉川惟足より「土津靈神」の尊号を授かった。正之は自ら猪苗代の地をあげ、古社・磐梯神社の末社として祀るよう遺言され、没後1675年(延宝3)に「土津神社」が創建された。以後、歴代の藩主が祭られている。創建当初は東北の日光と並ばれる程の豪華絢爛であったが、戊辰戦争で消失。ご神体は一時、当南(青森県)に遷された。1874年(明治7)に戻り、社殿も再建され現在に至る。神社、奥の院とともに会津藩主松平家墓所として国指定史跡となっている。



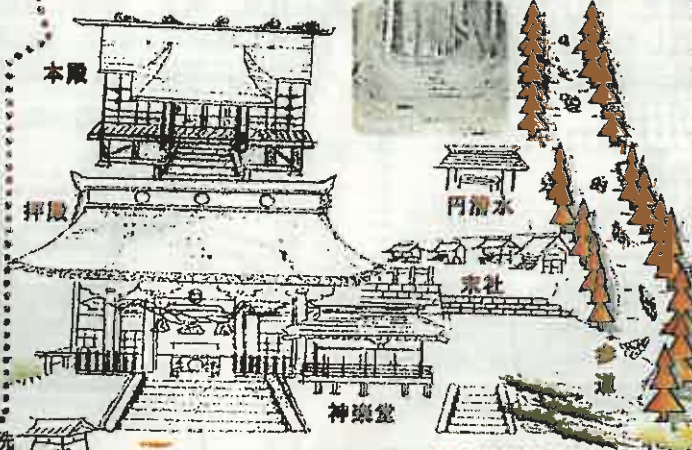
ちんせいし
鎮石



みいつちゅうじょう
会津中將
けんくんのほり
源君之墓碑



おくつちもん
奥津城門



土津神社 奥津城(奥の院)
神社の東にある参道を登っていくと、奥の院と呼ばれている保科正之の墓所がある。正之は1672年(寛文12)12月18日、江戸・真田(三田)の会津藩下屋敷で亡くなると、翌年3月に遺言どおり遺体は猪苗代に安置された。正之が亡くなる前年に猪苗代を訪れた時に「万代といはひ来にけり会津山 たかまの原のすみかもとめて」と詠じると同行した吉川惟足は「君ここに千とせの後のすみどころ 二葉の松は誓を返がん」とかえした。

社務所

奔雷瀑



御手洗

土津靈神の碑

儒学者・山崎闇斎が撰文し、能書家・土佐左兵衛の筆による正之の事績が、1943文字に刻まれている。龜趺(台座・龜石)と罕石を合わせると高さ7m余に及びもので、日本では最大の碑と言われている。龜趺は近くの土町から、3千人を要して運んだもの。龜石は鬼門の北を向いて据えられている。

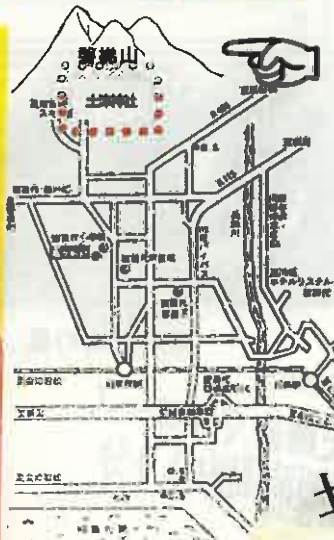
土津神社&史跡めぐりコース
は、別チラシをご覧下さい

土田堰

土田堰
土津神社の祭田料とするため1674年(延宝2)に土田新村を開き、その用水とするため開削された堰。今でも多くの田んぼを潤している。近世期には、この堰を利用して、流し木をして若松城下に薪を提供していた。土津神社や磐梯神社の御手洗川ともなっている。

土田堰記念碑

大山元帥直隸忠魂碑



案内板
駐車場



土津神社&奥津城めぐりコース
徒歩での所要時間約30分

お問い合わせ先
(社)猪苗代観光協会 TEL 0242-62-2048
FAX 0242-62-2939

〒969-3133
福島県耶麻郡猪苗代町大字千代田字扇田 1-4
URL/http://www.bandaisan.or.jp

会津磐梯山の大神 いわほし 磐梯神社 & 史跡めぐり

キリシタン殉教地・パテレン塚の墓

キリシタン大名であった若松城主蒲生氏郷のとき、猪苗代城代であった岡越後は熱心なキリスト教信者で、猪苗代にセミナリオ（神学校）も開設し、布教に努めた。蒲生忠郷のとき、猪苗代城代となった岡左衛門佐は、幕府の禁教の方針に沿う形で、キリスト教信者の迫害を行った。この塚は、殉教した人たちの耳を葬ったところ（耳塚）とも、岡越後夫婦や子供の墓とも言われている。碑は近年に建立された。

はっとりあんきやう 服部安休の墓

儒学者、神道家。江戸に生まれ、幼くして秣羅山に朱子学を学ぶ。その後、正之に仕え、菅川權足より神道を学んだ。『会津神社誌』の編纂に努め、会津領神社管領職を命ぜられる。土津神社が創建されると、初代の神官となり、遺言により、正之の眠る見弥山の麓に葬られる。進功靈社として土津神社の末社となる。義経丸の孫。

土津神社境内めぐりコースは、別チラシをご覧ください。

いわほしじんじや 磐梯神社

会津の全てを象徴している磐梯山は聖なる靈山として古くから人々の信仰を集めていた。磐梯神社は磐梯（磐梯）山を祭る神社として10世紀のはじめに編纂された「延喜式」の式内社として、全国にも名が知られていた。代々の領藩主から保護されてきては時は社殿も壮麗で神輿の御渡りや流鏝馬なども行われていた。会津の代表的民話「足長・手長」のゆかりの神社である。境内には会津5桜のひとつ「大鹿桜」がある。

たなかまさはる 田中正玄の墓

正玄の父は武田勝頼に従って長篠の合戦で戦死、正玄は佐渡で生まれた。15歳のとき、信州高遠藩主の正之に仕え、最上、会津に移封とともに藩政を司り、1666年（寛文6）には、藩の最高の指導者の御家司となった。当時の幕府大老土井利勝が、天下の三家老の一人に上げたほどの人物であった。靈号を信彦靈社といい、土津神社の末社となる。



いわほし 磐梯神社



「会津五桜」
大鹿桜
◇開花時期
5月上旬～
中旬

はにたせき 土田堰

土津神社の祭田料とするため1674年（延宝2）に土田新村を開き、その用水とするため開削された堰。今でも多くの田んぼを潤している。近世期には、この堰を利用して、流し木をして若松城下に薪を提供していた。土津神社や磐梯神社の御手洗川ともなっている。

はにたせき 土田堰



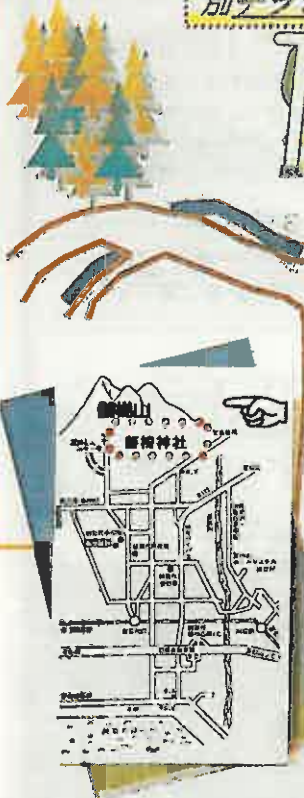
たなかまさはる 田中正玄の墓



キリシタン殉教地
・パテレン塚の墓



はっとりあんきやう 服部安休の墓



◇お問い合わせ先
(社) 猪苗代観光協会 TEL 0242-62-2048
FAX 0242-62-2939
〒969-3133
福島県耶麻郡猪苗代町大字千代田字扇田 1-4
URL/http://www.bandaisan.or.jp

磐梯神社&史跡めぐりコース
徒歩での所要時間約30分